

きぼうのいえ ニュースレター



2014年 秋号

特定非営利活動法人 きぼうのいえ

〒111-0022 東京都台東区清川2丁目29番12号

電話：03-3875-7523 Fax：03-3875-7525

E-Mail：kibounoie777@mbm.nifty.com

ホームページ：http://www.kibounoie.info

第66回『保健文化賞』を受賞しました。

施設長 山本 雅基

保健文化賞は、1950年に第一生命保険株式会社により創設されて以来、健康増進、疾病予防など保健医療文化、高齢者・障害者の保健福祉分野、少子化対策等の多岐の分野において顕著な業績を残した団体および個人を表彰することで、保健衛生の向上に寄与し、この分野における権威ある賞として高い評価を受けています。きぼうのいえはこの度、この栄えある賞を受賞しました。

10月7日にはホテルオークラで授賞式があり、私と藤堂ソーシャルワーカー、中川看護師の3名が出席致しました。授賞の趣旨は、以下の通りです。「東京の山谷地区で、重篤な病気を持った路上生活者等を入居させ、医療的ケア・ホスピスケアを通して充実した終末期を過ごすことのできる施設を運営するとともに、生活困難な者の救済と自立生活に貢献していること」。

式典では、主催者の第一生命より感謝状の授与が行われ、引き続き厚生労働大臣による表彰状の授与がありました。また後援のNHK厚生文化事業団と朝日新聞厚生文化事業団から記念品が贈呈され、その後、隣室において記念パーティーが開かれました。

パーティー会場では、本会の受賞に多大なご尽力を頂いた財団法人国際看護交流協会事務局長の粕川継廣氏から、私ども3名にお祝いの言葉を頂戴致しました。また私が前職より大変お世話になっており、20年来の知己である国立保健医療科学院の院長・松谷有希雄氏としばし歓談の時を持ち、旧交を温めました。

翌10月8日には宮中松の間において、天皇皇后両陛下に拝謁を賜りました。天皇陛下からは出席者全員に温かい感謝の言葉が述べられ、出席者一同が感動する大変意義深い拝謁となりました。両陛下は受賞者

ひとりひとりに歩み寄られ、仕事の内容などを尋ねられました。また、私たち受賞者の労をねぎらい、「くれぐれも健康に留意され、末永く活躍されますよう祈念します。」

と、お声を掛けて下さいました。

今回の受賞もひとえに、13年間にわたりきぼうのいえをご支援下さっている皆様のお心の実りと思っております。この場をお借りして、深い感謝の意を表したいと存じます。



(写真上) 受賞会場にて。左より、中川看護師、私・山本、藤堂ソーシャルワーカー。(右) 現在きぼうのいえの玄関に飾られている記念の盾。



「見送るまでは辞めない」って思ってたよ。



きぼうのいえスタッフ S.S.

寝たきりになる前のSさんが、談話室でのお茶会の常連だった頃。脳梗塞を何回も繰り返しているのに、「オレは命がけでタバコ吸ってるんだ!」って豪語。そのくせ、ちょっと具合が悪くなると、「救急車呼べ!」って大騒ぎ。「具合悪くて、コールも押せない!」って部屋からナースコールして来たり、「れろれろ…」って脳梗塞を起こした演技したり。

話術もさすが。どこまでがホントで、どこからがホラなのか…。ウソだとわかっていても面白くて、みんなで笑いこけた。小柄で短足のSさんがハーレー・ダビットソンに跨って、アメリカ大陸を横断してブラジルまで行った話は、想像するだけで笑えた。毎回、名指しで私に書き取らせたレシピの数々。“元料理人”という言葉が鵜呑みにして、摩訶不思議な料理を何回か試したけど…まんまと騙されたわ。

手先も器用だったSさん。かつての“職業技”で、お茶会のお砂糖やマドラーをくすねてたよね。もうあの頃はSさんは視力を失いつつあったから、私たちにバレてないと思ってた?

何事にもいちいち大騒ぎするSさんは、いつだったか「黄砂が入る。ザラザラする!」って騒いで、窓の隙間に納豆の空きパックなんかを詰めていたけど、ザラザラの原因は自分の足の皮! 強行にお風呂に入れたスタッフが悲鳴! お湯を抜こうとしたら、排水溝が垢で詰まった! いったい何年、お風呂に入った演技してたの?

Sさんの人生は、自分で彫ったという左腕の『男一代ご意見無用』の入れ墨通り。その入れ墨も、最初の字を大きくしちゃったから、先細りになってたし、予科練に憧れて彫ったという右腕の桜も、どう見ても梅最中。

3年ほど前に、演技じゃなくて、ホントに具合が悪くなって…寝たきりになって…それでも、相変わらずうさく自分の我を通す。何度もケンカしたよね。腹を立てて帰ろうとすると、「ご苦労さん! 気をつけて帰んなよ」。私の負け!

いちいち面倒くさい人だけど、憎めない。そして、左腕の文言どおり、一切の治療を断って、逝ってしまった。長いベッド上の生活なのに、ただのひと言も不平を言わなかったね。亡くなる直前まで、お茶会に差し入れしてくれて、ありがとう。

Sさん、私ね、ずっとずっと、「Sさんを見送るまでは、きぼうのいえを辞めない!」って言ってきたんだよ。寂しいよ。(Sさん:2014年6月永眠 享年80歳)

天国の同居者さんへの手紙

きぼうのいえから同居者さんが天国へと旅立たれたあと、スタッフやボランティアたちはいつも自分たちが差して差し上げたことより遥かに大きなプレゼントを、同居者さんから受け取っていることに気づきます。今年になって亡くなられた方々へのそんな思いを綴ってみました。



(〽) 具合の悪い人の面倒をみてくれたり、お茶会では人気者になるし、で、しまいには私のピンチに駆けつけて道具まで作ってしまふんだもの。そんなYちゃんを作った大扉を前にしてウルウルしている私に、Yちゃんは「ありがとね、すごく楽しかった。また手伝わせてよ。」と何度も言ってくれましたね。

Yちゃん。今年の人形劇は『天守物語』です。不思議なことに、Yちゃんがいてくれたらなあとはあまり思わないのです。むしろ、Yちゃんと私の魂が、今、ここで、いっしょに楽しんでいる! と感じるのです。

(Yさん
2014年
5月永眠
享年46歳)



乙女満開のKさんへ。

ヘルパーステーション ハーモニー ※1)



武藤 貴代美

「私はパンが好きなの」—Kさんはそう言って、最初の頃、食堂であまりご飯を召し上がりませんでした。その言い方には、「私は、ここにいる人たちとは育ちが違うの」というプライドの高さが溢れていました。「あんた、手エきれい? これで拭いて!」と、私たちヘルパーにティッシュを差し出す。—ワガママで神経質。それが私の、初めの頃のKさんの印象でした。そんなKさんを緊張のため冷や汗をかきながら、私はケアさせていただけにいました。

でも、少しずつ、Kさんは変わっていききましたね。月日が経つにつれ、Kさんのいい所が満開となりました。可愛くて、ケラケラとよく笑うKさんは、「年はとつても、心は乙女」でした。仙台の大学生だった時にお付き合いをしていた学生さんとの純粋な恋の思い出をはにかむように話すKさんは、まさに乙女そのもの。

Kさんと一緒に過ごした4年3カ月。訪問頻度が増えていき、そのうちほとんど毎日、私はKさんのお部屋にケアに行くようになりました。ふたりでよく笑ったし、ケンカもしたよね。私が1週間お休みしたら、次に行った時には怒った顔で、「あんたがあたしのこと一番わかってるのに、なんで来ないのよ!」って。

お食事の時には、なるべくたくさん食べていただきたくて、私は褒めて褒めて褒めまくりました。ちょっと食べると「Kさん、すごい!」、全部食べると「完食だあ!」。Kさんは「完食」って言葉が気に入っちゃって、大喜び。食器を返しに行くと、「武藤さんがついてる時は完食だねえ!」って、厨房の真知子さんに今度は私が褒められる。部屋に戻って、「あたし、Kさんのお蔭で褒められちゃった!」って言うと、Kさんは「あたし、あんたのために頑張ってるんだから!」って…。めんこい、めんこいKさん。

Kさん。思い出がありすぎて、書ききれません。きぼうのいえからの出棺の時、私は大泣きしてしまいました。やっと涙が止まったかと思うと、隣でコスモスの看護師Yさんが「ふえ〜ん」って泣いてる。それで、私もまた泣き出してしまい、そうするとそれを見て、またYさんも泣き出す。そんな風に、ふたりで並んで泣いていました。—Kさん。お会いできて、本当に良かったです。私は、幸せです。ありがとう。

(Kさん:2014年7月永眠 享年82歳) ※1) 山谷のヘルパーステーション ※2) 山谷の訪問看護ステーション

奇跡の人、Yちゃん—。



きぼうのいえスタッフ 中川 竜



奇跡といえは、Yちゃん自身が初めからミラクルでしたよ。この話は何度もYちゃんとしたけれど、一昨年Yちゃんがきぼうのいえに来たばかりの時は本当に状態が悪くて、あつという間に天に帰ってしまうんじゃないかと思っていました。

ところが間もなくして、麻痺で動かないはずの足でお御堂に上がって「神さまに会ってきた」と言うものだから、一同びっくりでした。それを機にどんどん元気になって、電動車椅子はA級ライセンス並みの腕前で浅草まで遊びに行ったり、(〽)

Yちゃん。今年もまた、クリスマス会でやる人形劇の準備が始まりました。去年は大道具作りを手伝ってもらいましたね。あれは『注文の多い料理店』のラストシーンに登場する大扉でした。

私がひとりお御堂で作業していると、Yちゃんがひよっこり上がってきて私がいかに大扉で苦戦しているかを見てとるや、「要するに、ここにこれくらいの箱を4つくつければいいんだろ?」と、ただちにポイントを把握。しかも「俺の部屋にちょうど良いのがあるよ」と、「これくらい箱」を“4つ”手品のように出してきて、いとも簡単に作ってしまつたのでした。クリスマス会の2日前のことでした! 私にとってはひとつの奇跡です。

恋する♡みその

By ryunryun

きぼうのいえのアイドルといえば、黒猫クララと茶トラのみその。そのみそのちゃん、どうやら誰かに恋してる？ 箱入り愛娘のこの恋に、父・山本氏は気づいているのか！？（たぶん、いない…。）



①



②



③



④

なんで、あたしのマンガがないねんッ!? (怒)



山本クララ



真夜中のタクシードライバーさん



キンコーン！ 1～2カ月に1度、山谷の町も寝静まった深夜2時頃、きぼうのいえの呼び鈴が鳴ります。まだ夜勤経験の浅い新人スタッフなどは、びっくり。「こんな時間に、一体誰？」急いで玄関に出てみると、50～60代の男性が。路上には、1台の黄色いタクシー。「これ使って下

さい」。男性は封筒を差し出すと、タクシーの運転席に戻り、静かに去って行かれます。お仕事明けでしょうか。それとも朝までお客さまを拾われるのでしょうか。封筒の中には温かな思いのこもった1枚の千円札が—。こうした全国、全世界の皆さまのお心に、私たちは支えられています。

■きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。

振り込み方法は、①郵便振替 ②銀行振込 ③インターネット募金 の3つがあります。

きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしく願い申し上げます。



① 郵便振替の場合

郵便振替番号:

00190-6-388670

名義:きぼうのいえ後援会

② 銀行振込の場合 (※1)

みずほ銀行 三ノ輪支店 普通

口座番号:1284037

名義:特定非営利活動法人きぼうのいえ

③ インターネット募金

ホームページからアクセスして、

カード決済することもできます。

<http://www.kibounoie.info/index.html>

- ※1：銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。
- 正会員希望の方は、お手数ですが事務局までご一報下さい。